



# 珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年

2025 7/25(金) ~ 9/7(日)

東京富士美術館のコレクションは、日本・東洋・西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約3万点から成り、とりわけルネサンス時代からバロック・ロココ・新古典主義・ロマン主義を経て印象派・現代に至る西洋絵画の油彩画コレクションは最大の特徴となっています。

「珠玉の東京富士美術館コレクション」をテーマに開催される今回の展示会は、その油彩画コレクションから厳選された作品によって西洋絵画400年の歴史をご紹介します。

本展示会では、従来の美術史に沿ったアプローチとは異なり、絵画の「ジャンル」に着目し、その序列や特徴

を解説します。第Ⅰ部では伝統的なジャンルの序列に基づく作品を展示し、各ジャンルの成り立ちや文化的背景を探ります。最も格が高いのは「歴史画」で、神話や聖書の物語を描いたものを指します。次に肖像画、風俗画、風景画、静物画の順で格付けされ、この序列の背景には、キリスト教的価値観やルネサンスの人間中心主義があります。第Ⅱ部では、19世紀以降に既存の価値観が揺らぐ中で、新たな表現が登場した近代の絵画を取り上げ、テーマと表現方法の両面から考察します。政治・産業・文化あらゆる変化が画家たちの想像力を刺激し、驚くような変化を遂げた近現代の作品をご紹介します。第Ⅰ部ではティントレットやヴァン・ダイクの古典作品、第Ⅱ部ではゴッホやモネ、セザンヌなど印象派以降の名品が、あわせて83点展示されます。西洋絵画400年の歴史と美を感じることができ、まさに「珠玉」と呼べるコレクションをお楽しみいただけたら幸いです。

2025年 夏号  
No.34

# 市美だより

鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館

〒892-0853

鹿児島市城山町4番36号

TEL(099)224-3400



## 無料開放日のお知らせ

毎月第3日曜日は、小・中学生は無料開放日

です。所蔵作品展 + 小企画展を

無料で鑑賞いただけます。

8月17日(日)

9月21日(日)



## 夏の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

ミニ特集: 戦後80年—平和への祈り 会期: 9月15日(月・祝)まで

当館のコレクションを紹介する所蔵品展では、黒田清輝、藤島武二、和田英作をはじめとする鹿児島ゆかりの作家の作品、そして印象派からポップアート以降まで19~20世紀の美術の流れをたどる展示を行っています。

ミニ特集では、太平洋戦争から終戦80年を迎えるにあたり、反戦への思いや平和の尊さをテーマにした作品を展示します。特集の中心作家として取り上げる浜田知明は、過酷な従軍経験から身をもって感じた戦争の不条理さ、戦争を起こす人間の愚かさなどを、銅版画で表現し続けました。銅板に刻んだ硬質な線と腐食による繊細な陰影が織りなすモノクロームの作品は、凄惨を極めた戦場の実際を伝える重苦しいテーマとは裏腹の美しい版画表現によって、より一層残酷さが際立っています。作品と共に紹介する浜田の言葉は、戦争体験の記憶が風化しつつある現代の私たちに、戦争の悲惨さを強く訴えかけるものです。

そのほか、世界で唯一核兵器が使用された日本から、言葉を超えて核兵器廃絶や平和を世界に呼びかけることを趣旨とした「ヒロシマ・アピールズ」のポスター、海老原喜之助、香月泰男、中間冊夫、郡山三郎による絵画、染川鐵之助による鍍金を戦争にまつわる作品として展示します。(※染川の鍍金作品は2階回廊の工芸コーナーで展示) 世界に目を向けると、今なお、地域間、民族間の戦争や紛争が各地で絶え間なく続き、メディアを通してその様子が生々しく報道されています。戦争の時代に身を置いた作家たちが作品に込めた、二度と戦禍を繰り返してはならないという願いを改めて感じ、戦争や平和について考えるきっかけとなれば幸いです。



展示風景

紙本墨画・軸装、53.8×120.0×横53.8cm  
野津無人相菩薩 楊柳観音図 1787年



### 《ピックアップ》所蔵品紹介

この《楊柳観音図》に近づいてみると、仏様がまとう衣が、数えきれないほどの小さな文字で描かれていることに驚かされます。更に背景の柳の葉も、滝の流れや水面も、目や口や鼻も小さな小さな文字で描かれていることに気づきます。これは江戸時代の薩摩で活躍した画僧、野津無人相菩薩(1726-1797)による「文字絵」の手法で描かれた作品です。

作者の野津は薩摩藩士の家に生まれながら、13歳で出家し、自らを「菩薩」と名乗るほど仏教を深く信仰していました。当時の薩摩画壇の主流であった狩野派には属さず、特定の師も持たずに独学で仏画を制作。名声や利益を求めず、描いた作品を人々に無償で与えていたと伝えられています。

- ・「楊柳観音」は、人々の病を癒やし、苦しみから救うことを願う慈悲深い仏様で、「薬王観音」とも呼ばれます。
- ・その手に持つ柳の枝は、病苦を取り除く癒しの力と人々の願いに柔軟に應える優しさの象徴です。背景に描かれた岩や滝は、観音様の慈悲が絶え間なく流れ出て、すべてを浄化する様子を表しているかのようです。
- ・野津は、人々の苦しみをやわらげ、救いへと導くことを願い、仏様の衣や背景をお経の言葉で描きました。
- ・野津の深い祈りの気持ちと「文字絵」の手法が見事に融合した傑作です。